

親指のケガの話

常務取締役 総務部部長 福島 秀明

昨年の年末に左手親指を怪我しました。休みの日に冬用タイヤに取替をして、夏用タイヤを運んでいる時に、手を滑らせタイヤを落としてしまいました。その時に指を痛めたのですが、そのまま作業を続けていました。しばらく経てば痛みは引くだろうと思っていたのですが、一向に治りません。翌朝になっても痛みは続いていますし、指が腫れて、黒くなっていました。

仕事を抜けて、整形外科の病院で診てもらいました。レントゲンを撮ってもらい、診察を受けました。左手親指の先が骨折していますという事で、親指にギブスを付けられました。ギブスを付けている間は、ギブスを濡らさないように、指をぶつけないように、と注意を受けました。骨折はしていますが、ズレは無いので手術は必要ないだろう、との事でした。



左手の親指が使えないだけで、私は右利きですので、左手が使えなくても大丈夫だと軽く考えていましたが、それは大間違いでした。左手の親指が使えないだけで、不便な事ばかりでした。服を着るのにボタンを留めるのも一苦労、靴紐も上手く結べません。食事の時も左手で茶碗が上手く持てません。親指の働きに自分の生活を大いに助けられていることに気がつかされました。

親指は他の指と比べて短く太い、親指だけが、他の指と輪を作る事が出来るという特性があります。その特性は人間だけが持つもので、その特性がある事で、手で物を摘まんだり、掴んだりする事が出来るのです。人間にとって、親指はとても重要な存在です。

人類が類人猿からの進化の過程で、二足歩行が出来るようになり、その結果、手が自由に動かせるようになりました。また親指が横を向いて進化したおかげで物を持ったり、道具を作るようになったり、道具が使えるようになりました。また、手が使えるようになったおかげで、脳も他の動物より進化したと言われています。



ギブスを濡らさないように、朝は顔を右手だけで洗い、夜はビニール手袋をはめてお風呂に入りましたが、痛みがあるので右手だけで体を洗わなければなりません。ぶつけてはいけないはずの指をどこかに当たる事も何度かありました。不自由な生活が続きました。

ギブスは4週間程で外してもらいましたが、痛みは続いていた。通院する都度、レントゲンを撮ってもらいますが骨折の筋が付いていますので、これが消えるまでは痛みは続くようです。両手は使えるようにはなりましたが、痛みがあるので、不便はあまり解消されません。

怪我から一ヶ月半程で通院は終わりました。親指に負担をかけたりしないように、ぶついたりして痛みがでるようなら来てくださいとの事でした。痛みは少し和らぎ、左手親指は少し使えるようになってきましたが、まだ完全に治っている訳ではありません。



人の体には様々な部位があり、その一つ一つに役割や働きがあります。その一つに不具合が生じるだけで、日常生活が一変してしまいます。親指だけの怪我でしたが、不便な事ばかりです。健康の大事さ、ありがたみを感じさせられる出来事でした。

参考 <https://daikyaresensei.hatenablog.com/entry>
親指の秘密！親指だけが横を向いているのはなぜ？+人の体なぞなぞ？ - ダジャレ先生の面白くてためになるブログ (hatenablog.com)

アポロ新聞

伊賀地区駅伝競走大会に出場!!

サガミSS 東山 竜也

2024年1月28日(日)に、第64回伊賀地区駅伝競走大会が開催されました。2016年の初出場以来、9年連続の出場となります。昨年より18チーム増えて56チーム、3部門での駅伝競走大会となりました。56チーム3部門は男子の部47チーム、女子の部2チーム、オープンの部7チームとなり、それぞれの部門での順位を競います。

アポロ興産はメンバーに多少入れ替わりもありましたが、今年も2チームで出場することが出来ました。上野ガスグループとしても「上野ガス・上野都市ガス」「伊賀上野ケーブルテレビ」の2チームが出場してしまて、グループで計4チーム。お互いに負けたくない所でもあります。

アポロ興産チームは昨年27位のところ20位、アポロ興産エンジョイズは昨年35位のところ30位（アポロ興産チームとの差5分以内）の目標を立て、昨年よりちょっぴり気合をいれて週2回の合同練習を行いました。

当日は天候に恵まれ、また沿道でたくさんの方々に応援を頂き、全員無事走り切ることが出来ました。



大会結果

●男子の部

順位	チーム名	総合タイム
26位	アポロ興産	1時間5分17秒
29位	上野ガス・都市ガス	1時間10分20秒
40位	アポロ興産エンジョイズ	1時間11分50秒

●オープンの部

4位	伊賀上野ケーブルテレビ	1時間14分14秒
----	-------------	-----------

この大会を機にランニングを始めてはや9年。「1キロ走る」ことすら出来なかった頃が懐かしく思えます。大会を開催して頂きました関係者の皆様、また沢山の声援を送って頂きました沿道の皆様に感謝致します。来年も記録更新を目指して出場したいと思います。

